

臨時総会議案 今年度図書購入費について の説明資料

9/24/2004 N J 補習校 父母の会 図書委員会
<http://www.hoshuko.org/tosyokan/tosyokan.htm>

1. 概要

目的： システム用費用と図書購入費のバランスを適正化し、より多くの予算を子供たちの読書のために振り分け、図書室の蔵書の拡充を図り、良質な日本語読書環境を子供たちに与えるとともに、近年高まってきた調べ学習への支援という要望への対応を図る。

背景： 昨年度3月、これまでの図書室の決算を検討し、過去数年間続いたシステム費\$2000、図書購入費\$2000という予算構成をシステム費\$1000、図書購入費\$3000へ変更することを提案した。システム費の減額は今年度予算案に盛り込まれ、図書購入予算はとりあえず昨年度どおりとし、執行部で継続検討するとともに、図書委員会は長期図書購入計画の立案を進めてきた。

提案： 今年度、図書委員会では蔵書の分析を詳細に行い、中・長期の図書購入・廃棄ガイドラインとシステム保守計画を策定した。これらの計画を基に、当初の計画どおり図書購入費を予算の\$2000 から\$3000 へと変更することを提案する。

2. 図書室の貸出状況と蔵書の分析

2001年に図書システムをPC化して以来、毎年貸出数を伸ばしており、昨年度の総貸出し数は17000冊に達した。初等部の貸出しは一人平均年間40冊にも上り、今後は量とともに質の向上も図る必要があると思われる。

長期の蔵書拡充のガイドラインを策定するために、まず、子供向けの蔵書、全3957タイトル(4220冊)に対し、1冊毎に図書館協会や大手書店、各種の読書推進組織の評価を調べ、下の表のようなランク分けを試みた。学校図書館基本図書目録に上げられている図書は204タイトル(類似図書56)、各種文学賞や推薦図書が全蔵書の約1/3の1351タイトルである。図鑑などを除くと、残りは一般読者による評価や書評も芳しくなく、さらにその中でも1年間に1回以下の貸出しがない図書が530冊に上り、重複している358冊と合わせて888冊が、貴重な書架スペースを圧迫している。また、E分類の図鑑類では20年程前に刊行されたものが半数を占めるため、最新のものに更新していく必要がある。

ランク	説明	図書数
A	学校図書館基本図書目録に含まれる	204タイトル
B	基本図書と同様な内容のもの	56
C	文学賞受賞作や各種推薦図書	1351
D	人気図書(シリーズものなど)	461
E	図鑑、伝記、全集など	675
F	上記に含まれず、年間貸出6以上	107
G	上記に含まれず、年間貸出2-5	215
H	上記に含まれず、年間貸出1以下	530
T	重複	358
計		3957

表1 N J 補習校図書室蔵書の分析 (子ども向け図書)

3. 中長期の図書室運用計画

(1) 購入候補図書リストと廃棄候補図書リスト

総合的学習に対応する学習用資料や読み物などを加えた幅広い蔵書構成を目指し、上述の蔵書の分析を基に、学校図書館基本図書目録(2004年度)を参考にして、補習校図書館として中長期的に購入するべき500冊を選定した。

一方、蔵書中のHランクとして分類された本と重複している図書を合わせた888冊は破棄候補図書とした。前述のように、E分類の古い図書も入れ替えの対象となる。

毎年の購入図書の選定は図書委員会の重要な役割の一つである。今回選定した購入候補図書に加えて、毎年2000冊以上刊行される児童書から、子どもたちや保護者の購入希望や人気図書を購入していくことによって、廃棄候補図書は随時、良質な図書に置き換わっていくことになり、結果として密度の濃い蔵書構成が出来上がる。また、購入候補リストは毎年見直し更新を行い、その年の父母の会や図書委員会の意見を反映していく必要がある。

(2) 購入図書の構成

表-2に購入図書の内訳の一例を示す。図書購入費を\$3000に変更した場合、学び学習に使える図書と読み物を合わせて84冊多く購入することができるようになる。

項目	2003年度	2004年度	増加分
初等部向文学	\$900 (76冊)	\$1400	42冊
中高等部向け	\$500 (42冊)	\$700	17冊
課題図書	\$300 (25冊)	\$300	
学習用資料	\$0 (0冊)	\$300	25冊
雑費	\$300	\$300	
合計	\$2000(143冊)	\$3000	84冊

表-2 図書購入費の内訳 (実績ではなく概念的な内訳 1300円/冊)

(3) 書架の収納

常設の図書室を持っていないという事情のため、図書の収納スペースも蔵書の拡充計画の重要な要素である。今年度はPCをラップトップ化したことにより、不要になったPC収納スペースに書架3ヶを増設し、約800冊の新たな収納スペースを作り出した。上述の破棄候補図書を合わせると、潜在的に1700冊の新しい図書を受入可能である。

毎年ありがたいことに沢山の寄付が図書室に持ち込まれるが、それらの収納スペースも十分に確保されている。

(4) システム保守計画

積立金：積立の目的は不慮の事故などでシステムハードウェアが失われた場合の再構築である。システムの再構築費用の見積もりは\$3500、現在の積立金額は同じく\$3500であり、積立金額は十分なのでこれ以上の積立は必要ない。

システム保守計画：

今年度のPC更新(新規購入1、寄付2)により今後数年間の全面的なシステム更新の必要性はない。今後、5年間にかかる保守費用を予測したものを表-3に示す。年間\$1000のシステム費で必要なシステム保守を十分に行えることがわかる。

項目	頻度	単価	小計
ソフトサポート料金	5年	\$270	\$1,350
バーコードリーダー	1回	\$200	\$200
プリンター	1回	\$200	\$200
PC	3台	\$900	\$2,700
ソフト更新	1回	\$500	\$500
合計			\$4,950

表-3 今後5年間のシステム保守費用の内訳

図書委員会は皆様のご意見を図書室の運営に反映させていただきます。ご意見・ご要望をお待ちしています。